



Magazine

hat | 橋本総業ホールディングス 2025 VOL.15

第39回テニス日本リーグ開幕 3チームが参戦!

第39回テニス日本リーグが開幕し、2024年12月5日から8日にわたり、横浜国際プールテニスコートとブルボンビーンズドームで1stステージが行なわれた。前回と同じく、男子は1チーム、女子は「橋本総業ホールディングス」と「橋本総業」の2チーム、合計3チームが参戦している。

男子チームは、故障中の選手がおりベストメンバーで臨めず、2勝2敗と苦戦を強いられた。杉山記一監督は2ndステージに向けて、「ベストパフォーマンスを出せるコンディショ

ン作り」を課題に挙げた。女子の橋本総業HDも故障者がいたが他メンバーでカバーして3勝。今回から監督を務める元WTA ランク39位の小畑沙織さんは、相手チームが研究してきたことを踏まえつつ、「プレッシャーを乗り越えて、しっかりと勝ち切った良い内容でした」と納得の結果。初めて監督を任せ、「日頃のツアー通りのプレーができる環境作りをしていきたい」と抱負を語った。女子の橋本総業チームは1試合も負けることなく3戦全勝。好スタートを切っている。



橋本総業ホールディングス・男子結果

12月5日(木)		
橋本総業ホールディングス	0-3	ノアインドアステージ
S1	デラニー ジェイク 4-6 4-6	松田 龍樹
S2	吉村 大生 1-6 1-6	富田 悠太
D	河内 一真/渡邊 聖太 6-7(6) 6-4 8-10	市川 泰誠/坂井 勇仁
12月6日(金)		
橋本総業ホールディングス	3-0	明治安田
S1	チュン ユンソン 7-6(6) 3-6 10-3	野口 莉央
S2	河内 一真 6-3 6-2	田形 諒平
D	渡邊 聖太/吉村 大生 6-1 6-2	矢島 淳揮/南方 遼
12月7日(土)		
橋本総業ホールディングス	3-0	MS & AD 三井住友海上
S1	デラニー ジェイク 6-2 6-1	諱 五貴
S2	河内 一真 7-5 6-1	藤原 智也
D	渡邊 聖太/吉村 大生 6-1 7-5	本城 和貴/賀川 稜太
12月8日(日)		
橋本総業ホールディングス	1-2	伊予銀行
S1	チュン ユンソン 2-6 5-7	中川 舜祐
S2	吉村 大生 3-6 2-6	片山 翔
D	河内 一真/渡邊 聖太 7-6(5) 6-4	河野 優平/楠原 悠介

橋本総業ホールディングス・女子結果

12月6日(金)		
橋本総業ホールディングス	2-1	センコーグループ
S1	小関 みちか 5-7 6-7(5)	猪川 結花
S2	北原 結乃 6-1 6-3	橋 薫乃
D	小堀 桃子/森崎 可南子 6-1 6-3	矢崎 梓紗/荒武 芽菜
12月7日(土)		
橋本総業ホールディングス	3-0	MS & AD 三井住友海上
S1	小関 みちか 6-4 6-2	細木 祐佳
S2	北原 結乃 6-1 4-6 10-7	古西 美桜
D	小堀 桃子/森崎 可南子 6-1 6-0	村瀬 早香/眞鍋 楓果
12月8日(日)		
橋本総業ホールディングス	2-1	明治安田
S1	岡村 恭香 5-7 7-5 10-5	光崎 楓奈
S2	小関 みちか 5-7 6-4 5-10	足立 真美
D	小堀 桃子/森崎 可南子 6-4 6-0	猪瀬 瑞希/清水 里咲



橋本総業・女子結果

12月6日(金)	橋本総業 3-0	エームサービス
S1	瀬間 詠里花 6-1 6-0	加治 成美
S2	小林 ほの香 6-0 6-0	大河原 悠
D	大前 綾希子/ツアオ チアイー 6-2 6-1	鈴木 沙也伽/田中 菜冴美
12月7日(土)	橋本総業 3-0	フクシマガリレイ
S1	瀬間 詠里花 6-2 6-2	吉川 ひかる
S2	小林 ほの香 6-0 6-1	宮内 梨奈
D	大前 綾希子/ツアオ チアイー 6-1 6-1	堺愛結/清水梨沙
12月8日(日)	橋本総業 3-0	テニスユニバース
S1	瀬間 詠里花 6-0 6-3	安部 由香莉
S2	小林 ほの香 6-0 6-0	森笠 眞衣
D	大前 綾希子/ツアオ チアイー 6-1 6-0	守屋友里加/寺見かりん

今後のスケジュール

2ndステージ 会場：横浜国際プール、ブルボンビーンズドーム
 日程：男子 1月22日(水)～26日(日) 女子 1月25日(土)、26日(日)

決勝トーナメント 会場：東京体育館
 日程：男子 女子 2月14日(金)～16日(日)

TOPICS

小堀 桃子 Momoko Kobori

Yokohama Keio Challenger International Tennis Tournament 2024
 sponsored by Mita Kesan
DOUBLES WINNER
\$2,230

ITF W50
DOUBLES
優勝

ITF W50
日本・横浜
11月25日～12月1日
ダブルス準優勝

森崎 可南子 Kanako Morisaki

ITF W75
DOUBLES
準優勝

ITF W75
オーストラリア・ゴールドコースト
11月25日～12月1日
ダブルス準優勝

今年シングルスで飛躍した柴原瑛菜インタビュー 後編

ダブルスの選手としての印象が強かった柴原瑛菜が、2024年にシングルスで結果を出した。初挑戦となった全米オープンで2回戦に進出し世界ランク132位へと躍進。なぜシングルスにシフトして、これほどの結果が出せたのかを教えてもらった。

単複両方の結果を望んだ2年間で無理だとわかりシングルスに集中

—東京五輪までダブルスで成功を取めた後、シングルスで戦う決意をした理由を教えてください。

柴原瑛菜 (以下柴原) 小さい時からシングルスでトップに行きたいという夢がありました。ダブルスは良い結果が出て、とても良い経験でしたが、本当にやりたいことを今やらないと後悔すると思い、シングルスに集中することにしました。

—その決断に迷いはなかったのでしょうか？

柴原 ありませんでした。色々な人と話して、ダブルスのランキングを失くすのはもったいないとも言われましたが、自分が何をやりたいかを一番大事にしました。ただ、ダブルスも終わりではなく、シングルのランキングを上げたら、ダブルスもツアーに戻れるので、それを目指してシングルスに頑張ろうと思いました。

—約2年間ランキングはあまり変わらず、2024年に急激



に上がりました。2年という期間は予定通りですか？

柴原 東京オリンピック終わってからシングルスに力を入れると言っていましたが、当時はまだダブルスのツアーを結構回っていて、少し減らしてシングルスにも出ている状態でした。それではシングルの試合数が少なく、ランキングを上げるのが難しかったんです。ダブルスもいい結果を出し続けたいと思ってしまって、気持ちも半分半分の状態で2年間やりました。しかし、ダブルスにほとんど出場せず、シングルスに集中してITFから始めないとダメだと思ったんです。2024年は、シングルのスケジュールを作って取り組みました。90%シングルス、10%ダブルス。その10%はグラン

ドラムで、そこで良い結果を出せばトップ40には残れるという自信はありました。ダブルスに出る時は、100%コミットしてやっていた、他の大会ではシングルスに集中しました。すると、やっと結果が出て、ランキングも上がりました。

——その2年間はシングルスとダブルスは、どんなバランスだったのですか？

柴原 ダブルスはWTAツアーに出ていましたが、シングルスは入れないので、その週はダブルスだけになることが多かったです。年に3回ぐらい、シングルスで予選に入れましたが、単発で出られても良い試合はできず、このままではどっちつかずだと思って決心したのが、2024年でした。



「2025年のシーズンが
終わった時には、
トップ50に
入ってみたいです」

家族のサポートと 橋本会長の力強い肯定の言葉が力に

——シングルスだけに絞って、大変になったことはありませんか？

柴原 その2年間でシングルスのためのトレーニングを始めていたので、フィジカル面での準備はできていました。スタミナも付いていて、シングルスで3時間は戦える身体ができていました。プレースタイルは、あまり変わりはありませんが、違う点もあります。ダブルスはとにかくアグレッシブで、最初からパシッと打って行きます。そうしないとポーチされたりしますから。シングルスでは最初からそこまでハードにする必要がありません。ポイントを組み立てる時間の余裕がありますし、最初から攻撃しすぎてミスをしてしまうと相手に流れが行ってしまうので、そういう点は考えながらやりました。流れや相手を見て考えるようにしています。

——ショットが力強くなったと思いますが、どういう取り組みを行ないましたか？

柴原 トレーニングのお陰なのか、自然と付いてきました。シングルスの場合、ショットのクオリティが高い方がポイントの流れが自分に来るので、ただパワーだけでなく、重さやスピンなど色々なことを考えるようにしています。

——シングルスに集中したら、すぐに結果が出せたのがすごいですね。要因はなんでしょうか？



右は長兄の柴原瑞樹さん

PROFILE

1998年2月12日生まれ。アメリカ・カリフォルニア州出身。170cm、右利き。2021年東京五輪に青山修子と組んでダブルスに出場。22年全仏オープン混合ダブルス優勝。23年全豪オープン女子ダブルス準優勝。ダブルスの自己最高ランキングは4位（22年3月21日付）。24年はシングルスに集中し、548位だったランキングを132位（10月21日付）にまで上げた。

柴原 サポートのお陰だと思います。父は1年中一緒に遠征を回ってくれています。父は打てないのでヒittingパートナーもいて、3人で一緒に回っています。テニスはとても孤独なスポーツなので、その2人がいるだけで大きな力になってくれています。家に帰ると、兄（次男）と一緒に練習をしてくれたり、すごくたくさんのサポートがあります。プロになってから橋本総業様がサポートしてくれています。最初はダブルスでサポートしてくれていましたが、2024年に「シングルのスケジュールでいきます」と伝えても応援してくれたんです。その時の橋本会長の対応が、「シングルスでも行けると思う」という力強いものだったんです。この話をした時に、シングルスに集中することに対して不安そうなトーンの人もいる中で、会長が自信たっぷりに肯定してくださったのは本当に力になりました。そういうサポートのお陰で目標の150位以内になれたと思います。

——家族のサポートという点では、お兄さん（長男）とのサービス強化もありますか？

柴原 小さい時から一緒に練習してきて、一緒に作ったサービスです。身体が小さい時からサービスは良かったんですが、身体の動きをどうすれば、低い身長でも良いサービスが打てるかを考えてトレーニングしていました。今は背も伸びてもっと良くなってきました。最近トレーニングしていたことは、どうしたら簡単に良いサービスを打ち続けられるかという点でした。プロになった時は、試合の最初は良いサービスが打てても、疲れが出てくるとクオリティが落ちてしまい、第2、3セットになるとサービスキープができなくなっていました。今は最後まで良いサービスを打ち続けられます。それはトレーニングの成果だと思います。

——今後の目標は？

柴原 今のランキングで四大大会の予選に全部入れるので、来年はすぐにトップ100に入りたいです。そして、四大大会の本戦から入れるようにして、もっといい結果を出したいです。そして2025年のシーズンが終わった時には、トップ50に入りたいです。

——応援してくれている皆さんにメッセージを。

柴原 シングルスに集中して良い結果を出していきたいので、応援よろしくをお願いします！



日本の大会に出場するために戻った柴原選手と一緒にテニス！



働くボクサー



YUKAIのコラム

橋本総業株式会社の福島支店販売1課に勤務する今藤悠開が、ボクシングの魅力をお伝えする！



二刀流サラリーマンを目指して

ボクシングの魅力は多くの意味で強くなれること、抽象的に表現されることを体験・具現化できるところにあると思います。トレーニングによって肉体的に強くなることはもちろんですが、成長の過程は必ずしも楽しいだけではありません。自分で選んだ道ではありますが、何でこんな事をしているのだろうと自問自答してしまうことも多々あります。

そんな中で、自問自答と実践を繰り返していくことで実力が付き、強さに繋がると私は考えています。肉体的・精神的に苦しいことも多くありますが、全てと向き合った先に成果があり、達成感と共にスポーツとしての楽しさが見えてきます。これらのことは全てのスポーツに共通しますが、私にとって特に魅力を感じたのがボクシングでした。

試合では、体験・表現ができます。ボクシングは鍛錬の過程は多くの人に支えられていますが、試合はたった一人で戦います。孤独と恐怖と向き合い勝負し、日頃の積み重ねが証明されます。ここで自身のマックスを出すことができるかどうかで、強さの証明になると考えており、一般的に抽象的とされる「強さ」を具現化できる瞬間だと捉えています。ボクシングならではの魅力であり特徴であると考えています。

現在は週5、6日のトレーニングをしており、母校の大学練習にて選手兼コーチをすることもあります。土日祝は午前練習、平日日中は会社にて仕事をして夜に所属のボクシングジムにて練習をしています。

会社ではまだ新人なので、任された仕事を正確に素早くこなしていくことで、今後のお客様からの信頼につなげられるように意識しています。

お客様の中にはボクシングがお好きな方もいらっしゃるのですが、競技者だからこそできる小話なども混ぜてコミュニケーションを図りたいとも考えています。仕事と競技の両立は確かに大変ですが、私だからこそできることを意識して行動し、付加価値と信頼の共存を目指しています。

学生時代からボクシングを競技者として取り組んできた私が、社



会人として生かせることは、向上心と忍耐力です。今より少しでも良い状況にするために必要な向上心は、競技者として成長するために考える習慣と共通している部分だと思います。また、苦しい鍛錬にも目標のために耐え、継続してきた経験は、仕事での苦しい状況でも逃げずに向き合う事ができる能力の育成に役立っていると自負しています。

2024年11月20日に無事にプロテストに合格し、現役のプロボクサー兼HAT社員となりました。会社の皆さんや友人、大学の先輩後輩など、たくさんの方々に応援していただけている非常に幸せな状況です。感謝を忘れずに、HAT社員として胸を張れる仕事との向き合い方、そしてプロボクサーとしてしっかりと強さを身に付けていく「二刀流サラリーマン」として大成したいと考えております。お客様からも激励の言葉を既に頂いているので、HATの今藤を二刀流社員として信頼、応援したいと思ってもらえるような人間になりたいと考えています。



肉体的・精神的に苦しいことも多くある中で、全てと向き合った先に成果があり、達成感があるのがボクシングの魅力

PROFILE

今藤 悠開

Yukai Imafuji

1999年2月22日生まれ。18歳大学入学時にボクシングを始める。東北学院大学卒業。第76回国民体育大会宮城県予選（バンタム級）優勝、東北ブロック予選3位。令和3年仙台市民総合体育大会（ライト級）優勝。